

北川陵墓参考地冠木門改築工事に伴う立会調査

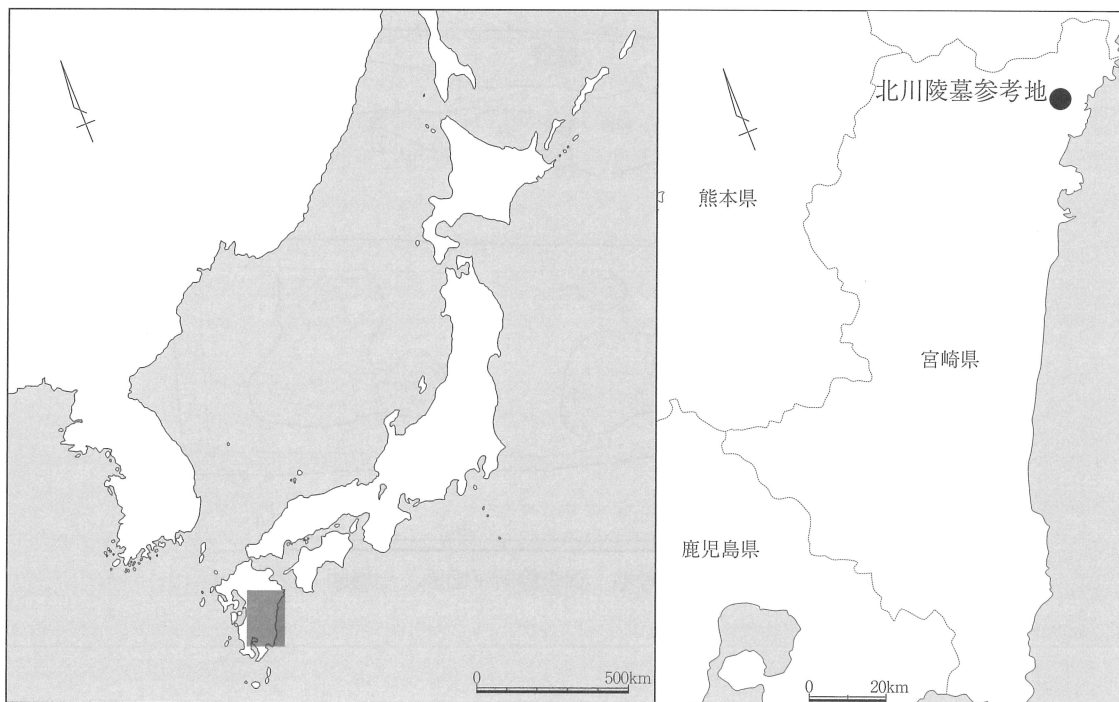
はじめに

北川陵墓参考地は、宮崎県延岡市北川町長井に所在する（第8図）。北川陵墓参考地は、明治28年（1895）12月4日に御陵墓伝説地とされ⁽¹⁾、大正15年（1926）10月21日に皇室陵墓令および同施行規則が公布されたことにともなって、陵墓参考地となった。昭和4年（1929）に「北川陵墓参考地」という名称が付与され、現在に至る。北川陵墓参考地には円墳の可能性のある墳塋があり、全国遺跡地図では可愛山古墳とも呼ばれている⁽²⁾。冠木門の老朽化に伴い、新しい冠木門に改築することとなった。冠木門は墳塋の東側に設置されており（第9図）、1mほどの掘削が見込まれた。墳塋が古墳であるとすれば、掘削箇所は周溝の位置にあたる可能性がある。また、当参考地は「俵野遺跡」という周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれている。これらの理由から、本部立会をおこなった。

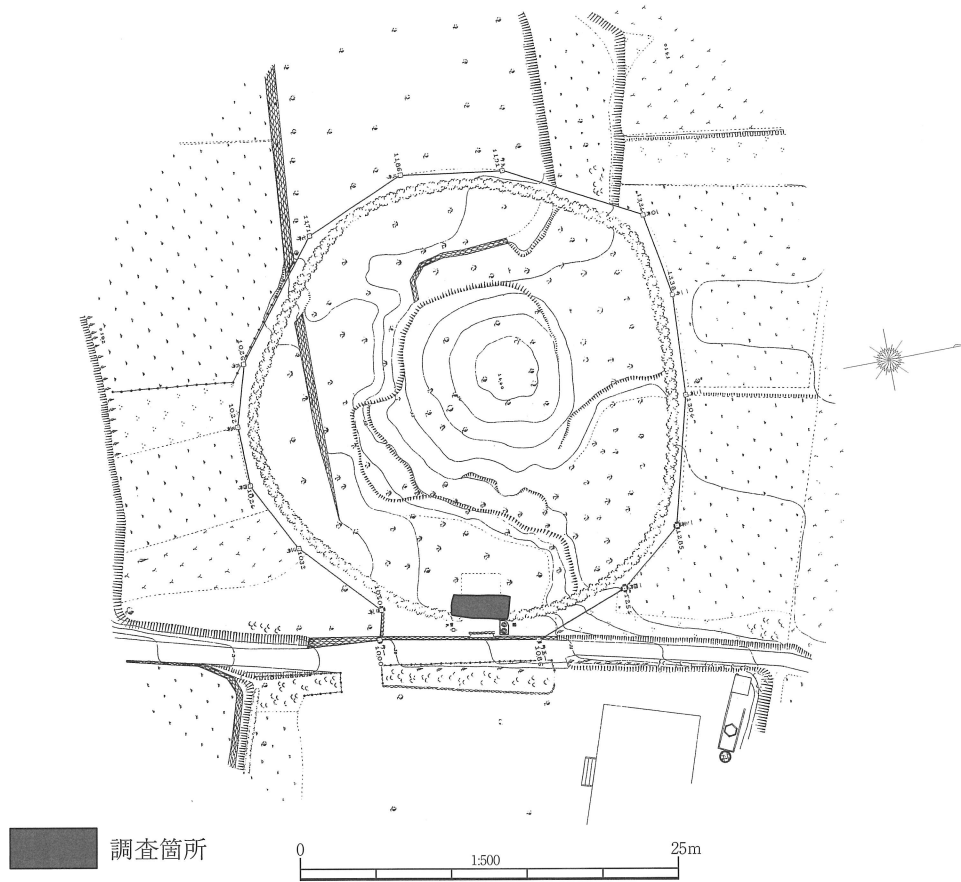
1 基本的な層序と調査の状況

掘削は、冠木門の基礎を埋め込むために必要な、長さ3.8m×幅1.5m×深さ0.8~1.0mの範囲でおこなった（第10図、図版11）。調査期間は平成29年1月9日~15日にかけての7日間であった。

層序は、Ⅰ層：冠木門設置以降の表土（黒褐色）、Ⅱ層：冠木門設置前の堆積土（暗褐色）、Ⅲ層：冠木門設置前の堆積土（黒褐色）、Ⅳ層：地山（褐色ローム層）の順であった。大きく攪乱はされておらず、比較的層位は安定していた。壁面では、Ⅱ層の上からⅢ層、Ⅳ層にかけて柱痕を検出した。また壁面以外の場所でも柱痕を検出し、最終的に現状の冠木門の柱位置にあわせて左右3つずつ柱痕を確認した。もっとも大きな柱痕は、今回取り外した冠木門の基礎があった箇所である（柱痕1）。位置からみて、これらの柱痕は冠木門にともなうものであると考えられる。桃山陵墓監区事務所の記録によると、昭和6年⁽³⁾、昭和15年、昭和55年、平成17年に冠木門を改築したとあり、これらの内の三箇所に対応する可能性が高い。Ⅰ層の柱痕周辺からは瓦（いぶし焼成）、鉄製品、銅製品、磁器片、ガラス片、ビニール片が出土した。

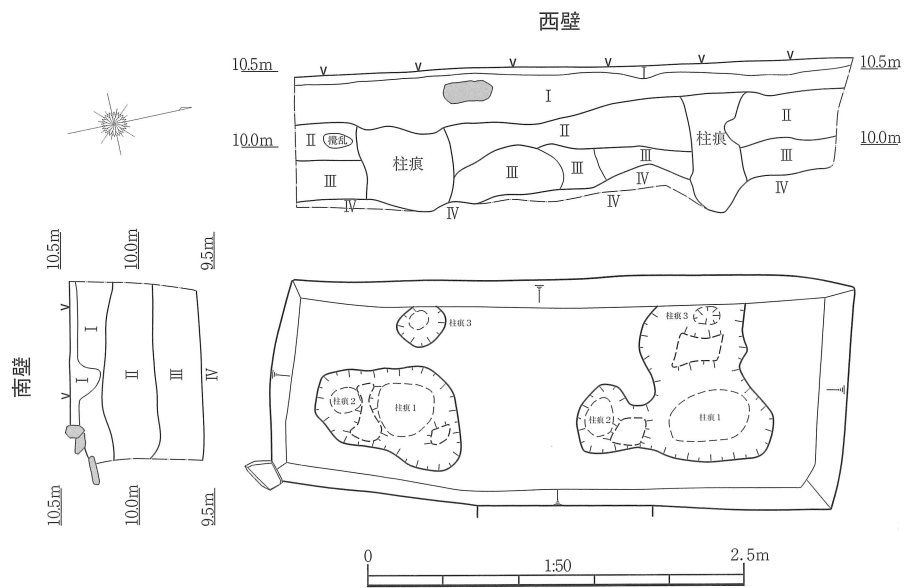


第8図 北川陵墓参考地 概略位置図（1/25,000,000、1/2,000,000）

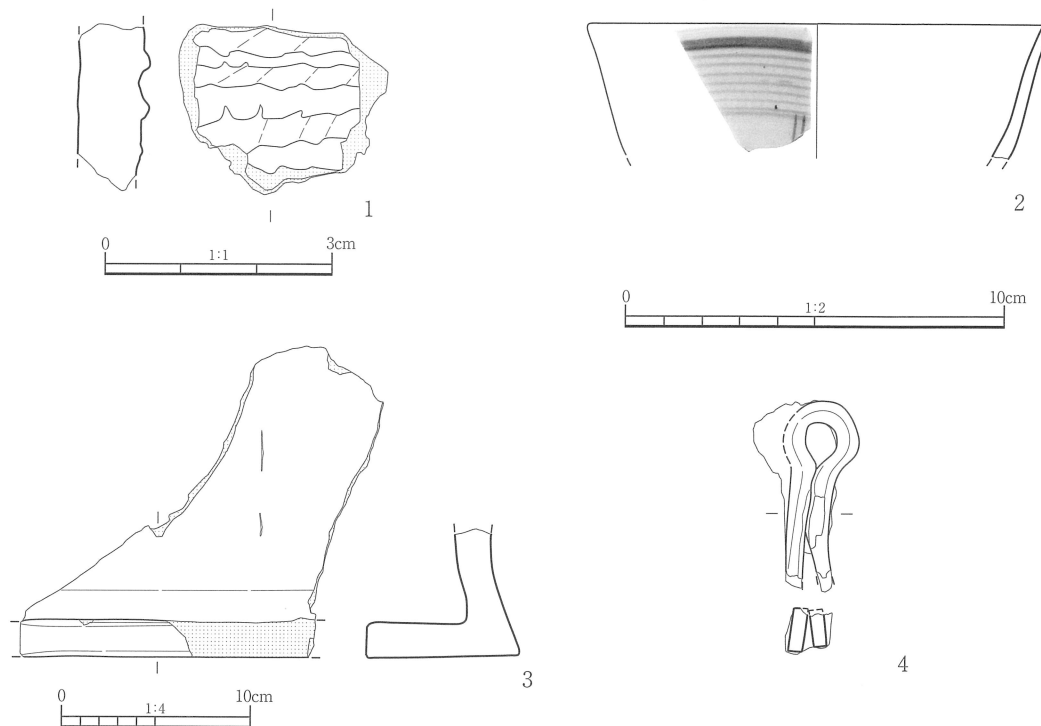


調査箇所

第9図 北川陵墓参考地 調査箇所位置図 (1/500)



第10図 北川陵墓参考地 調査箇所平面図、土層図 (1/50)



第 11 図 北川陵墓参考地 出土品実測図 (1/1、1/2、1/4)

東壁の層位からは鬼界アカホヤ火山灰層が確認された (図版 11-2)。この層は約 7300 年前の層位と考えられている。この層位の下側には西壁でいうところのⅢ層がみられ、ここから縄文時代早期の押型文土器の破片が出土した。年代的にも矛盾しておらず周辺には縄文時代早期の集落が展開していた可能性が考えられる。

当初予想された古墳の周溝だが、明確な遺構や遺物は検出されなかった。周溝と直行方向に掘削しなければ周溝の肩がみえにくいため判断が難しいが、冠木門改築前の堆積土に掘り込みの痕跡はみられず、古墳時代の遺物も含まれていなかった。現在の状況からは、周溝があったとは考えにくい。

2 出土遺物 (第 11 図、図版 12)

第 11 図 1 はⅢ層から出土した土器である。小さな破片であるが、押型文と考えられる文様が確認されることから、縄文時代早期の押型文土器であると考えられる。

2、3、4 は北側の柱痕 1 の埋土中から出土した。2 は磁器碗口縁の破片である。復元口縁径は約 12.2 cm である。外面、内面ともに青色の染付があり、口縁部を中心に独楽筋がみられる。近世以降のものであろう。3 はいぶし瓦の破片である。棧と谷の部分であろうか。近世以降のものである。4 は不明鉄製品である。古墳時代に多くみられる鑷子状鉄製品 (毛抜き) の頭部と頸部に類似しているがその下の部分が欠損しているため、確定はできない。出土地点から考えると近世以降のものである可能性が高い。

他にも図化はしていないが、北側の柱痕 1 の埋土中からは、不明銅製金具、碇子、薬瓶の蓋、ビニールテープが出土した (図版 12-2)。ビニールテープには、「三楽オーシャン株式会社」、「ホワイトリカー」などと記載されている。おそらく酒瓶についていたものであろう。三楽オーシャン株式会社 (現、第一アルコール株式会社) は昭和 37 年 (1962) から昭和 60 年 (1985) まで使われていた社名であり⁽⁴⁾、埋められた時期がかなり絞り込める情報である。柱痕 1 の埋土中から出土したものは、ビニールテープの情報から考えて、昭和 55 年の冠木門改修時に紛れ込んだものであると考えられる。

まとめ

以上のように、過去の冠木門の柱痕は検出されたが、他に遺構はみられなかったため、予定通りに整備工事を実施した。(土屋隆史)

註

- (1) 『諸陵寮誌』2 明治16～30年（宮内公文書館所蔵、識別番号56002）。
- (2) 文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 宮崎県』、1977年。
- (3) 「第8号北川陵墓参考地御門改造工事見積内訳書ト図面ト相違ニ付訂正ノ上施工ノ旨担任管守へ通牒ノ件（二月）」諸陵寮『工事録』昭和6年（宮内公文書館所蔵、識別番号8731）。
- (4) キリンホールディングズウェブサイトの「第一アルコール株式会社 沿革」より。
URL:<http://www.kirin.co.jp/company/group/daiichi-alc/history/>